

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年9月5日（火）

2 確認箇所

- (1) D排水路
- (2) 5・6号機敷地護岸ヤード

3 確認項目

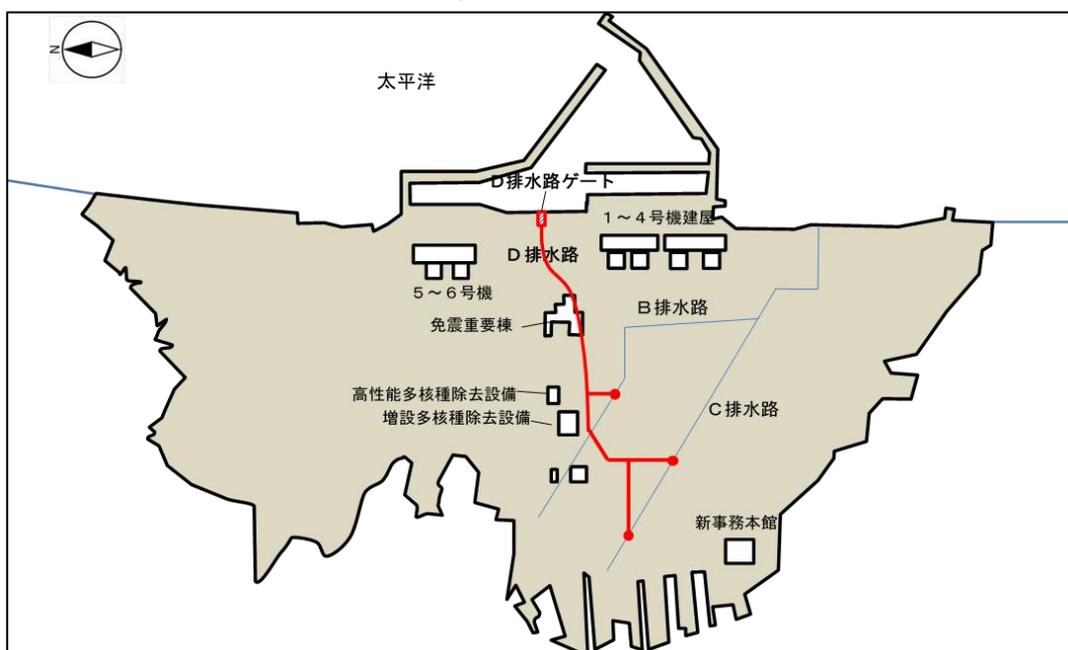
- (1) D排水路の状況
- (2) 多核種除去設備等処理水希釈放出の状況

4 確認結果の概要

(1) D排水路の状況

D排水路は発電所構内西側の33.5m盤から1～4号機建屋周辺に流れ込む雨水による浸水リスクを低減するために設置された。本日はその状況を確認した。（前回確認日：令和4年12月27日）（図1）

なお、D排水路は令和4年8月30日から運用が開始され、また、D排水路の排水の放射能濃度について、同年11月29日から遠隔による連続監視が行われるようになった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

- ・ D排水路とB排水路の接続部（桜通り駐車場内）を確認したところ、流れている水は濁りが無い等外観上特に異常等は認められなかった。（写真1）
- ・ K4タンクエリア南側に設置されているゲートを確認したところ、「開」となっており、電源ケーブル、分電盤等関連設備を含めて、外観上特に異常等は認められなかった。（写真2）
- ・ D排水路最下流部を確認したところ、ゲートは「開」となっており、弁別型P S Fモニタ[※]、監視カメラ、移送ポンプ等関連設備を含めて、外観上特に異常等は認められなかった。（写真3）

※弁別型P S Fモニタ

降雨によるフォールアウトの影響（放射性Csの γ 線）で指示値が上昇する傾向があるため、 β 線+ γ 線の検出部と γ 線の検出部を有し、それぞれの測定値の差を取ることによって、 β 線（Sr-90の寄与）が測定可能。



（写真1）
D排水路とB排水路の接続部の状況



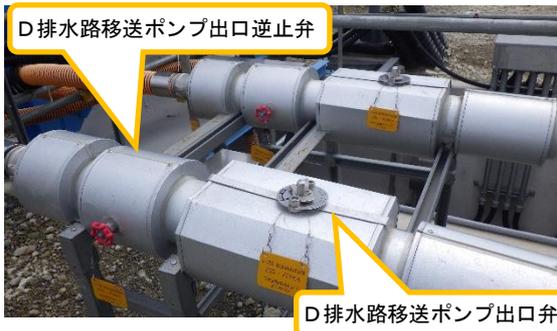
（写真2）
ゲートの状況



（写真3-1）
D排水路最下流部の状況①



(写真 3 - 2)
D排水路最下流部の状況②



(写真 3 - 3)
D排水路最下流部の状況③



(写真 3 - 4)
D排水路最下流部の状況④

(2) 多核種除去設備等処理水希釈放出の状況

多核種除去設備により、汚染水から放射性物質（トリチウムを除く）が安全に関する規制基準を確実に下回るまで浄化されていることを確認した水（以下「ALPS処理水」という。）は、トリチウム濃度の規制基準を厳格に遵守するだけでなく、政府の基本方針に基づき、 $1,500\text{ Bq/L}$ 未満を満足する濃度になるよう、海水で大幅に希釈され、海洋へ放出されている。（令和5年8月24日放出開始）

本日は、前回に引き続き、放出中のALPS処理水希釈放出設備の運転状況等を確認した。（図2及び図3）（前回確認日：[令和5年9月4日](#)）

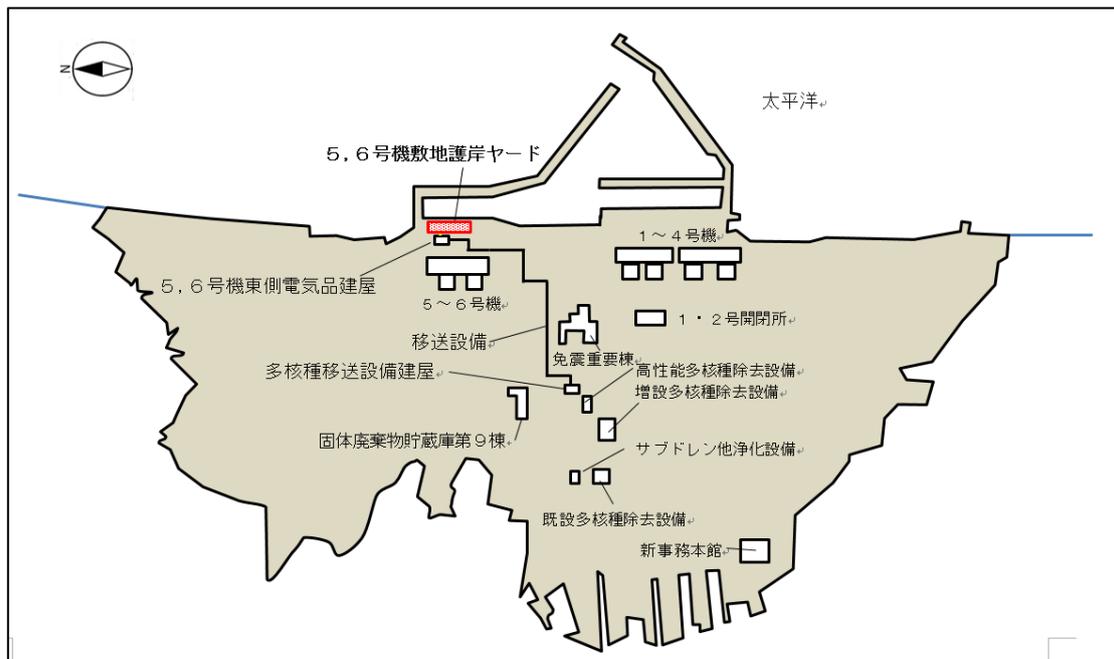
○海水配管、海水移送ポンプ

- ・希釈用の海水を移送中の海水配管、海水移送ポンプの状況を確認した。
- ・海水移送ポンプA系とB系が稼働していた。（写真4）

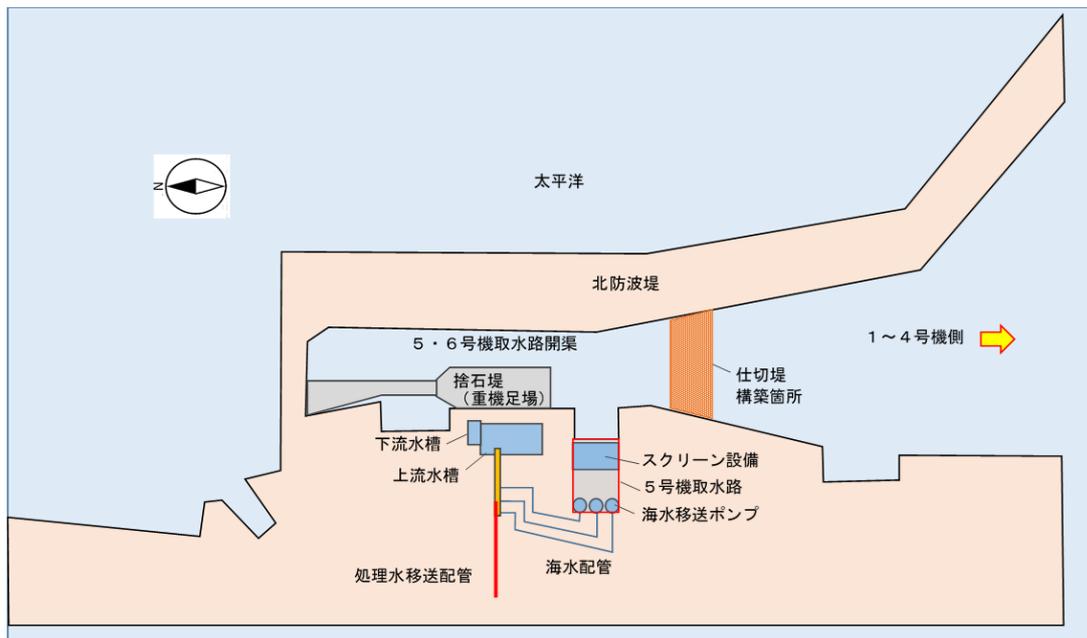
- ・海水移送ポンプから海水配管ヘッダに至るまでの海水配管及び海水移送ポンプ周辺を確認したところ、確認した範囲では、海水配管からの滴下等の異常は見られなかった。(写真5)
- ・海水配管に取り付けられた流量計を確認したところ、約7,500 m³ / hを指示していた。

○放水立坑（上流水槽・下流水槽）

- ・ALPS処理水放出中の放水立坑の状況を確認した。
- ・ALPS処理水は、上流水槽と下流水槽の境界にある堰を越流し、上流水槽から下流水槽に流れていた。
- ・下流水槽を確認したところ、下流水槽の上端から下に目測で約3 mのところに水面があり、水位が上昇していないことから問題なくトンネルを通じて放出口からALPS処理水が放出されているものと推測された。



(図2) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図3) 5・6号機敷地護岸ヤード付近の概要図



(写真4-1)
海水移送ポンプ (A) の状況



(写真4-2)
海水移送ポンプ (B) の状況



(写真5)
海水配管の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。